

知的財産戦略推進事務局 知財のビジネス価値評価検討TF

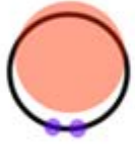
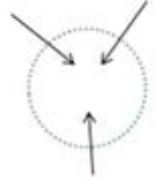
知財価値評価に関する 必須特許ポートフォリオ理論を応用した考察

2018.1.17

弁護士法人内田・鮫島法律事務所

弁護士・弁理士 鮫島正洋

一定の市場規模の伸びを想定したモデル (一製品一特許型の場合)

A) 特許によって独占(1製品1特許型市場)							
	年数	1	2	3	4	5 累計	
	市場規模(億円)	2	4	10	30	100	146
	売上	2	4	10	30	100	146
	利益率	20%	20%	20%	20%	20%	
	利益額	0.4	0.8	2	6	20	29.2
B) 特許なし							
	年数	1	2	3	4	5	
	市場規模(億円)	2	4	10	30	100	146
	売上	2	4	7	15	20	48
	利益率	20%	20%	10%	5%	5%	
	利益額	0.4	0.8	0.7	0.75	1	3.65

利益を8倍程度増強する効果

特許のビジネス的な観点からの価値

【論点】

世の中のほとんどの工業製品は一製品中に多数の特許が使用されている。
例:スマートフォン=10000件

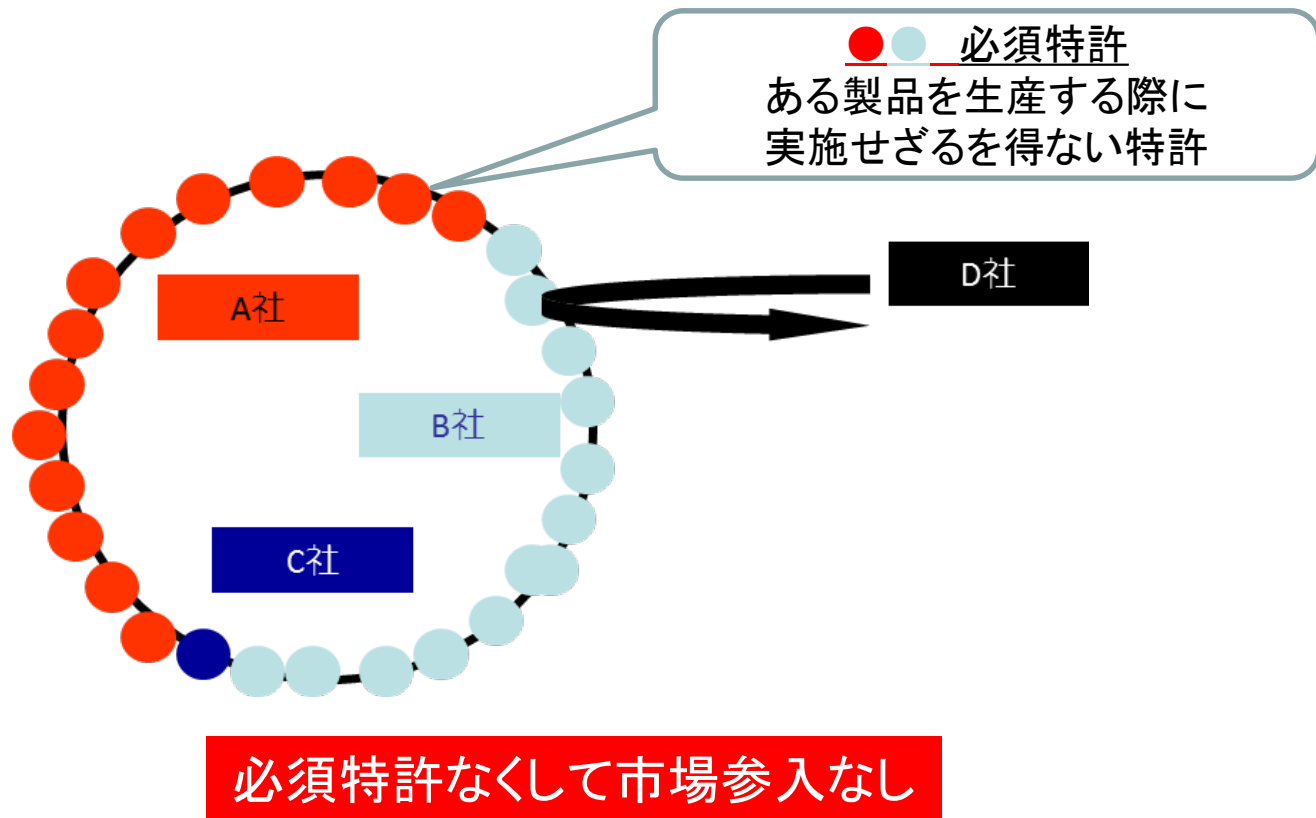


この点をどのように斟酌して知財の評価をしていくか。

市場参入と特許保有との関係性は？

・必須特許を保有している企業数＝市場参入している企業(プレイヤー)の数

※「必須特許」＝ある製品を生産する際に実施せざるを得ない特許(強い特許)



一定の市場規模の伸びを想定したモデル

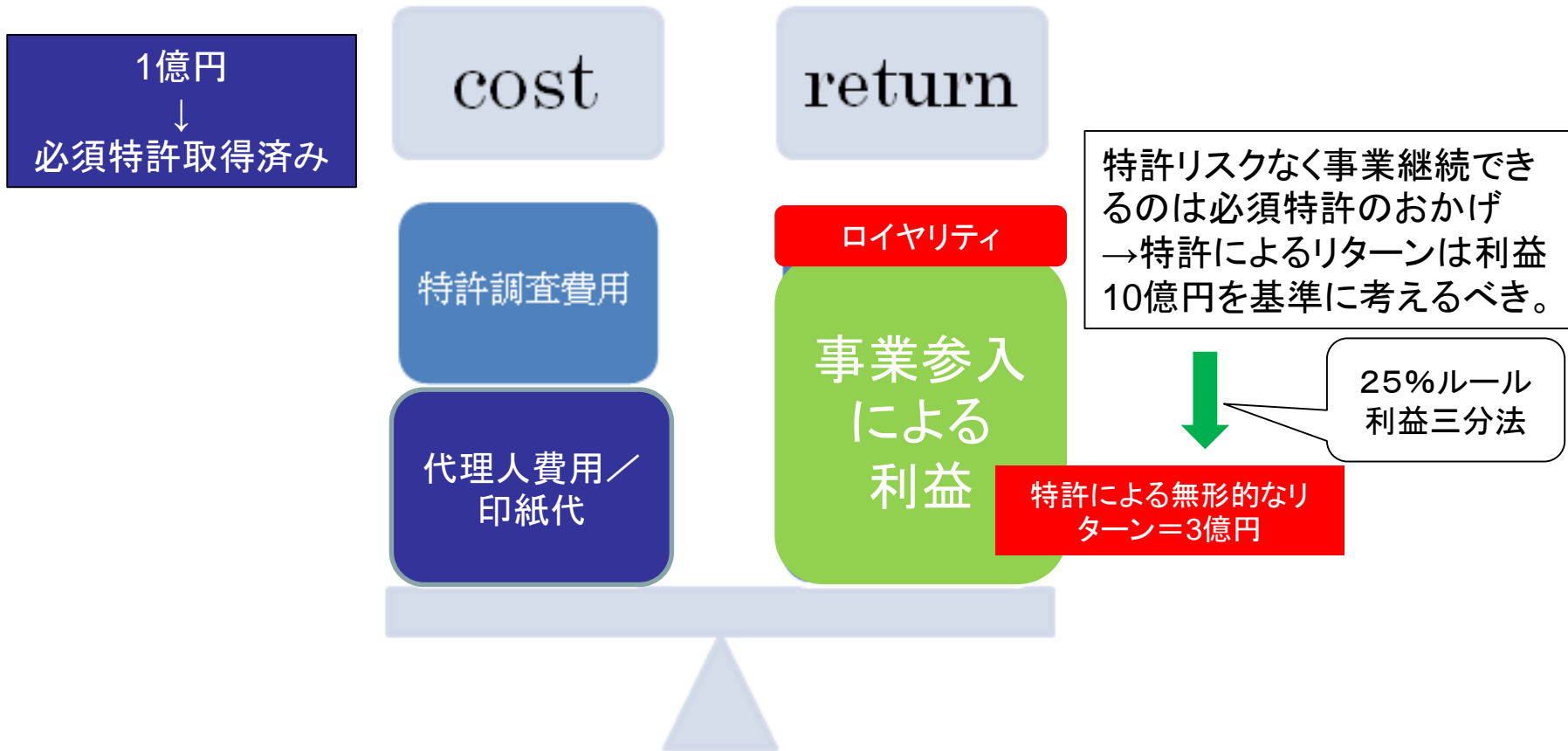
A) 特許によって独占(1製品1特許型市場)							
	年数	1	2	3	4	5 累計	
	市場規模(億円)	2	4	10	30	100	146
	売上	2	4	10	30	100	146
	利益率	20%	20%	20%	20%	20%	
	利益額	0.4	0.8	2	6	20	29.2
B) 特許なし							
	年数	1	2	3	4	5	
	市場規模(億円)	2	4	10	30	100	146
	売上	2	4	7	15	20	48
	利益率	20%	20%	10%	5%	5%	
	利益額	0.4	0.8	0.7	0.75	1	3.65
C) 特許によって寡占(1製品多特許市場)							
	年数	1	2	3	4	5	
	市場規模(億円)	2	4	10	30	100	146
	売上	2	4	10	20	50	86
	利益率	20%	20%	20%	15%	15%	
	利益額	0.4	0.8	2	3	7.5	13.7

利益を8倍程度増強する効果

利益を4倍程度増強する効果

特許のビジネス的な観点からの価値

毎年1億円特許投資し売上100億円(利益率10%)は是か? 特許投資によるコスト・リターン(大企業版)





特許投資によるコスト・リターン(中小/ベンチャー企業版)

(本来的な役割)

- ・後発参入を防止→事業計画の実現可能性を上げる

(売上の達成、ニッチトップ市場における#1、利益率の維持など)

(派生的but重要な役割)

- ・大企業との交渉力アップ

- ・技術に対するブランディング

- ・金融機関に対するアピール効果(知財金融)

- ・事業計画書に盛り込むとイケてる感じに

 - 資金調達の蓋然性アップ(投資を見える化している=投資効率のいい会社)

- ・上場審査等において審査項目となる

- ・バイアウトの際にも加点要因→バリュエーションアップにつながる

(知財に対する経営判断の枠組み)

上記効果を買うためにいくらの費用をかけるのか

ご清聴ありがとうございました

技術法務で日本の競争力を実現するー内田・鮫島法律事務所

samejima@uslf.jp / 03-5561-8550

<http://www.uslf.jp/> (弊所オフィシャルウェブサイト)

<http://www.ip-bengoshi.com/> (知財弁護士ドットコム)

<http://www.it-houmu.com/> (IT法務ドットコム)

<https://gijutsu-venture.com/> (技術ベンチャードットコム)